

夏休みを控えて

## 続・技術者の教養

この本だけは読んでおこう

### まえがき

2年前の同じ時期『ビブリア』No.18参照－専門の先生方の手をわずらわせて、学生諸君のための読書案内をしていただいた。下級生・上級生を問わず技術者となろうとする者は、必ず眼を通しておいて欲しい本の紹介であった。この26号は、その続稿にあたる。

ところで、専門というと、他科で習っていることには、全く無関心な学生がいる。しかし、これは、おかし。現代の技術・科学の水準では、各科（の学生）が、狭い自分の殻にとじこもってでは、自分の専門分野さえ、十分に理解し発展させることができないのである。学際的という言葉が、もはや珍らしくなくなったように、今や昔風の狭い視野で物事を判断しては、ものの役に立たないのである。

その意味で、他科の先生方が紹介されている本についても、じっくりと取組んでみるファイトを、学生諸君に求めたいのである。国内的・国際的経済情勢は一段と厳しい。しかし、これは、またとない勉強の刺激となる。若者には、温室よりも荒野の方が、よく似合う。折角の勉学の好機を逃してはならない。

平川 一

### 「技術」について

機械工学科 中山 淳一

この地球上に、人間が現在のような文明社会を築きあげることのできたのは、現生人類の出現当初「火」と「道具」を使うことができたことにあるといわれている。摩擦熱により火を発生させ、これを自由に使うようになったことは、人間が生存するのに極めてきびしい条件にあった中で、人間を優位に立たせたことだ

ろう。また、他の動物に比べてずばぬけて発達した頭脳と自由に動かすことのできる器用な手とが協力して、手の延長とみられる道具を使用したことも人間が生きのびることを可能にしたにちがいない。（火も道具も人間が神からもらいうけたことになっているようだ）

道具といっても、はじめは身近にあった石塊や骨などを、一つの目的に対して利用しただけだったのである。しかし次第に石などの材料に手を加え改良を重ねて、それまで自然界に存在しなかったものまでつくるようになってきた。このようにして、今日私達が「技術」といっていることの発生をみる訳であるが、これ

は言語の助けを借りて、ある時期は早く、またある時期はゆっくりと進歩してきた。その内容も道具、器械（器具）そして機械となって現在に至った。

さて、将来プロの技術者として世に立つ人は、技術についてその人その人なりの認識をもっていなければならないのではないかと思う。それには、まず歴史的経過を知った上で、現実を正しく把握し、さらに来るべき未来を考えるとという一般的な方法をとることだと思ふ。

その意味で、平田寛著「失われた動力文化」（岩波新書）を一年生から五年生までの諸君に一読をすすめたい。この本は古代オリエントから古典時代を経て中世末期までにわたり、主として歴史的考察を中心に書かれている。わかりやすい文章と多くの挿絵や写真が読者の理解を助けてくれる。内容を簡単に列記すると、てこ、くさび、ねじなどからはじまり、蒸気機関が発明される以前の動力、すなわち人力、畜力、水力そして風力とこれらを利用した動力機関（原動機）を中心に、その発達過程、社会的・文化的背景や影響を顧慮しながら述べられている。そして最後に一技術環境の危機一として公害問題にもふれられている。

次に、ビクター・C・ファーキス著「テクノロジカル・マン」（志摩隆訳、サイマル出版会）を高学年生にすすめたい。この本は内容も実に豊富であり、文献や註釈も多いので技術を考える上で非常に参考になると思う。著者はジョージタウン大学の政治学の教授であり、その内容は政治と技術の関係、特に技術が今日の世界を変革しつつある事態をとらえ、それに対処し得る人間のあり方を述べられている。さらに、この本には「来るべき技術文明と人間」という副題がついており、従来の未来論に欠けている政治的・哲学的な面の問題点をつき、将来の現実的問題解決への方向も示している。著者は最後にエックハルト師の言葉を引用して、これが永遠の真理であると下記のように言っている。

「この人生にはとどまるところがない一人間はどこまで行っても誰にもそのような場所がない。してみれば、まず何よりも神の贈物、そしてつねに新しい贈物にいついかなる場合にでもそなえておかなければならない」（エックハルト）。新しい贈物は今日われわれのまわりにたくさんある。そしてさらに、新しい贈物はその性質も現われる時も予想できない。それがどのようなものであろうと、人間の発展の要求するものにそれを変えていく能力にこそ、人間の未来だけではなく、創造物すべての未来がかかっているのだ。」

# 「マイクロコンピュータ時代の到来」

電気工学科 春日 健

## 1. はじめに

何か本の紹介ということで執筆を引き受けたわけであるが、ここでは昨今の半導体技術の急速な発展の所産物であるマイクロコンピュータにスポットをあて、その概略について述べ、あわせて関連する文献を紹介させて頂きたい。

## 2. マイクロコンピュータとは

マイクロコンピュータもその名の通りミニコンピュータや、さらに上位機種種のコンピュータと同様に能力として次の条件を満足するものである。

即ち、CPU（中央処理装置）、入出力装置、さらにソフトウェアの3つの結合が必要である。

マイクロということに関しては、CPU、メモリ部が素子の発展（LSI化）により小型、軽量化されていることに由来し、コストパフォーマンスが良い為従来ディスクリート回路で行っていたものや、ミニコンで行っていたものの分野に使われてきている。価格もミニコンと言われるものが数百万円を越えるのに対して、マイクロコンは数十万円～数万円である。正確に言えばマイクロプロセッサ（CPU）の価格である。

マイクロコンピュータ用の電源として現在の時点では、+5V、+12V、-10Vが必要とされるが、専用の電源も市販されており、また自作も比較的容易である。今後は、+5V単一に向かっていくものと予想される。

メモリに関しては、用途に応じて揮発性のものや不揮発性のもの等があるが、1ボードで4Kバイトのものが一般に見受けられる。

最近ではフロッピーディスクと呼ばれるものが出はじめている。これは縦横20cmの紙の袋の中に薄い磁性体の円盤が入っており、これをディスク装置の中に差し込むと中の円盤だけが毎秒60回転して読み書き可能になる。本校にあるOKITACのディスクと比べれば転送速度は遅いがそれでも高速紙テープリーダーの100倍の速さにもなり記憶容量も非常に大きい。いわばマイクロコンピュータにとってフロッピーディスクは利用面に測り知れないものをもっている。しかし、現在の時点では20万円は下らない。そこで初めは、キーボード入力でLED（発光ダイオード）出力

といった電卓的な要素を含むこともコストの点から止むを得ない。しかし、これではコンピュータというよりはカリキュレータといった段階であり、せめてTTY（テレタイプ）が必要となってくる。この端末は新品だと数十万するが、マイクロコンピュータを扱っている店では必ずといってよいほど一流メーカーの中古品が出回っているのでそれを利用するとよい。つい先日、マイコンショップを見てきたが、その中には本校計算センターで使用のOKITYPERSも陳列されていた。

また少し値ははるが、CRTディスプレイも接続すれば完全に近い形が得られる。

このように作られたマイクロコンピュータは実験用としてはもとより制御用として機器に組み込むことも可能であり（将来これが主流になると思われる）、処理速度はミニコンよりはおちるが手許において使えるコンパクトな計算機として大いに期待できる。

現在、様々なメーカーからキットの形で出ており、マイクロコンピュータをめぐる半導体技術はまだ発展途上にあり、今後さらに周辺回路やメモリを取り込む形でCPUチップの集積度が上がり、電力を食わないCMOSチップ（電池で動作可）が低価格化し、メモリチップもさらに大容量化するのは確実で、さらによりキットも出回ると思う。特にメモリが安くなればいずれはキットレベルでアセンブラや高水準言語のコンパイラがPROM（プログラム可能な読出し専用メモリ）に入れた形で利用可能になることを期待したい。

### 3. マイクロコンピュータに関する文献

最近、マイクロプロセッサの発展とともに、それに関する書物もだんだん出回ってきている。参考となるものとして以下に述べる。

#### (1) 初歩的、入門書

月刊誌「bit」共立出版

「学習コンピュータ」学研

大川善邦著「マイクロコンピュータの作り方」産報

#### (2) 専門書、専門的内容

「インターフェース」CQ出版

月刊誌「エレクトロニクス」オーム社

佐々木彬夫著「マイクロコンピュータシステム」

共立出版

石田晴久著「マイクロコンピュータの使い方」産報

正田他著「マイクロプロセッサ制御の設計」産報

石田芳著「マイクロコンピュータの開発技法」産報

「電子通信学会誌 Vol.60 No.2」

A. Barna 著「Introduction to Microcomputers & Microprocessors」  
Wiley, 1976.

### 4. おわりに

電卓と称されるものが、半導体技術の進歩により低価格化してきたようにマイクロプロセッサも現在より安くなることは必至である。それゆえ、出来るだけ多くの文献を読み知識を蓄えておけば、コンピュータというものが自作できる。

ただ、作りさえすればよいというのではなく、これだけではプラモデルより始末が悪い。すべては目的をはっきりさせ、十分に使いこなすには技術のみならずアイデアが要求されるのである。

## 「化学エレクトロニクス」

工業化学科 引 地 宏

最近の科学技術の進歩の中で、エレクトロニクスの発展はめざましく、私達の生活環境を大きく変えてきた。また、工業化学科の実験実習用機器一つ取り上げてみても、過去15年間にトランジスタ化され、寿命も長くなり、高精度の新しい測定機器・制御機器が作られた。以前の化学実験はガラス器具類と加熱機器およびモーターなどによる物質の合成と分離精製が主であった。しかし、今日では化学分析機器のめざましい発展により、極微量の物質まで測定され、あらゆる角度から物質の構造解析ができるようになった。そこで、私達はこれらの機器を大いに活用し、未解決の分野を開拓して行くことが課題であろう。しかしながら、私達化学野はこれらの新製品（測定機器）の内部機構および構造上の問題点についてはあまり触れずに利用し、測定値の再現性と感度などをチェックするのみである。これは、エレクトロニクスの知識不足が原因しているのであろう。そこで、これからの工業化学科の学生はぜひ電子技術の基礎知識も身につけて卒業して行ってほしい。

ここに紹介するのは岩田倫典著の「エレクトロニクスはいかにして創られたか」日刊工業新聞社発行である。（ただ、電気工学科の学生のみ読まれているのは残念である。）本書は電子技術発展の歴史的背景と他の学問分野とを考慮し、わかり易く実例をあげながら解説している。殊に、固体エレクトロニクスでは、半

導体表面の取扱いと表面の整流理論、トランジスタとダイオードの発達、固体素子の微小化と多感素子半導体など私達にも興味のある問題が多く、素材の構造と電気的特性について追究しながら読まれることをすすめたい。また、高真空を得るための工夫、超伝導現象の応用、電子顕微鏡の開発、質量分析計の分解能などについて、物理的角度から物質の特性および測定機器の性能を追究することも大切であろう。

さらに、エレクトロニクスの入門書として、Bernard Grob and Milton S. Kiver 著、大河内正陽訳の「エレクトロニクス入門」全4巻、近代科学社発行をすすめたい。本書は電磁気学や電気回路理論を理解するには困難である私達専門外の者にも、エレクトロニクスの基礎として必要な知識をこれ以上詳しく述べることは不可能ではないかと思われるほど丁寧に解説している。第1巻と第2巻は基礎編で、抵抗器からトランジスタまでの各部品の定格（形、色別、容量）、種類、特性および故障の原因に至るまで詳細に述べられているため、分析機器の簡単な故障の応急処置はできるようになる。また、第3巻と第4巻は応用編で、増幅器から測定器までの結合方法、回路の形式および特性などについてわかりやすく述べられている。これらを参考にすれば、簡単な制御装置を組立てることもできよう。一般に、専門書は高度の内容をできるだけ高度な数式を使って説明しているため、私達専門外の者はなかなか飛び込んで行けないが、本書はオームの法則から順次省略することなく高度の内容まで解説している点、他の本では見られない特色のある参考書と言える。

## 一度は読んでおきたい本

土木工学科 橋本孝一

◆「この頃の学生はあまり本を読まない」などという声をよく耳にする。近頃のようにマスコミが発達し、書籍が店頭に溢れるような時代に青年期を迎えている学生諸君には、ある意味では受難の時代なのかもしれないとしばしば同情を禁じ得ない時がある。無限にある書籍の中から自分の人間的な成長の「こやし」となるようなものを選びとるのは至難の技だ。低学年の諸君にとっては、読書歴も浅い場合が多いであろう。意欲はあるのだが、一体どんな本を取ったらいいのやと思っている諸君。土木工学科を選んだんだけど、い

ったいこれからどんなことをやるようになるんだろうと不安に思っている諸君。そんな諸君に以下の書物を一度は読み、あるいは眼を通すことをお奨めしたい。きっとこれらの書物の中に土木技術者のロマンを見いだすことができるだろう。

◆まず、さまざまなタイプの土木技術者が出てくる小説として、次の書を推せんしたい。

木本正次著「黒部の太陽」（毎日新聞社）

吉村 昭著「高熱隧道」（新潮社）

黒部渓谷に構築された一連のダム群。そのダムの構築にあたってどれだけ多くの血みどろの人間ドラマが展開されたかを語りかけてくれる。特に私は、高熱隧道の中に登場する藤平健吾工事課長と根津大兵衛工事事務所長の人間的な対比に強く魅かれたりした。これらの小説は、そのダムが建造された時代的な背景などについて考えさせる機会をも与えてくれる。

◆海外でも土木技術者達は多くの実績を残してくれているが、そこでの技術者像をイメージアップしてくれる小説として、

曾野綾子著「無名碑」（講談社）

木本正次著「香港の水」（潮出版社）

「無名碑」には福島県の只見川の電源開発も舞台に登場してくる。タイでの道路工事が活躍の舞台になっている。なぜ『無名碑』という書名になったのかについての講釈はやめておこう。それは、諸君が実際に読まれば解ることだ。「香港の水」の舞台は、書名の通りだが、ある計画が実施される以前の香港は、慢性的な水不足の状態であった。その水不足を解消するために実施された香港上水道計画に参画した土木技術者の群像が描かれている。桐島瞭、中塚末雄、立教大学野球部出身の谷川匡、などの個性的な人間像が浮かびあがってくる。特に海外での仕事には、それぞれの国の風俗習慣の違い、歴史の中でとの絡まりなどが重なり、多くの困難を抱えるのが常のようである。「香港の水」の中に出てくるヒロインの何麗芬（ホウライフン）の人生ドラマは、読む者に、戦争の残酷さ・罪の深さを強く訴えるものがある。香港での水不足の実情を眼の当にし、大水道計画の入札を前にした技術者が、「俺の香港での記念碑にしたい。日本軍がかつて戦火で荒した香港に、俺たち日本人の手で人間の生活に1日も欠かせない『水』という平和の記念碑を建てたい！」と情熱を沸らせる。ここに私は、土木技術者の壮大なロマンを見る思いがする。

◆日本の歴史を振り返った時、そこにも多くの土木技術者がいたことを見いだす。そんな人物像を浮かび上がらせてくれる小説として、

岸 武雄著「千本松原」(あかね書房)  
かつおきんや著「辰巳用水をさぐる」(牧書房)  
杉本苑子著「玉川兄弟」(朝日新聞社)  
タカラテル著「箱根用水」(東邦出版社)  
などが親しみやすい本だと思う。昨年堤防が決壊し、大きな被害を与えた木曾3川での江戸時代における河川工事に関する史実を基にした小説が「千本松原」である。『辰巳用水』の板屋兵四郎、『玉川兄弟』こと玉川庄右衛門・清右衛門兄弟、『箱根用水』の友野与右衛門などの技術者像が史実を基礎に小説化され紹介されている。ちょっと本の内容の紹介という本題からそれるが、「辰巳用水をさぐる」の著者かつおきんや氏は、教職のかたわら余暇を利用して、小学生を含む家族を引き連れて、史跡を丹念に洗い出し、家族討論を通じて推論を展開するといった手法で史実を洗い直している。この手法を見て、私は、ひょっとしたら私にも、などという気を起こさせられた。だから諸君にも一読を……。

◆次に、読むというより通覧されることを契めたい本として、

日本国有鉄道「日本国有鉄道百年史」(全15巻)がある。この本は、図書館の書庫の北側にひっそりと収納されているが、ページを丹念に読むにはかなりの根気と知識が必要となろう。でもそこで諦めるなかれ。写真や図が数多く挿入されており、見るだけでも、土木・電気・機械などの百年の歩みを見るようで楽しい。だから機械工学科や電気工学科の学生諸君にも契めたい本である。

◆以上いろいろと本を紹介してきたが、以上のほかにも、土木屋が主人公の小説は数多くある。紙面の都合で割愛するが、興味のある諸君は、土木学会誌の1976年の10月号を参照されるようお契めしたい。また主な工事の工事記録誌というものを見るのも結構楽しいものである。それらのいくつかは本校の図書館に収納されているのである。求めよさらば与えられん。

(S.52.6.17記)

## 学生原稿

(付)

この原稿は、編集の都合で、前号に掲載できなかったものである。たんなる読書感想ではなく、なかなか優れた問題提起の文章といえよう。読書とは、すべてこのようでありたいものである。(編集者)

## 「行人」を読んで

4 E 長谷川 広 樹

漱石には二つの三部作がある。「三四郎」「それから」「門」と、「彼岸過迄」「行人」「ころ」である。この第二の三部作の中で最も劇的な問題をふくんでいるのは「行人」であるといわれている。しかし漱石の他の作品と共通の構成のゆるみは随所に発見できて、けっしてよく書けた小説ではない。その物語るものは漱石の内部の複雑な分裂である。

まず、あらすじを述べよう。前三章は一郎とその妻お直の不和を、一郎の弟の二郎を中心として、また二郎の父母や妹や友達などの目を通して提出したものである。一郎は自分の妻お直はもしや弟に思いを寄せているのではないかと疑うようになる。実はいろいろの事情があってこの疑いはあながち病的ということではできないのだが、一郎はついには弟に妻の節操をためしにくれといいだす。二郎はむろん拒否するが、兄嫁と一緒にかけた帰り道に嵐にあい、一郎がはじめてに希

望したごとく共に一泊する羽目におちいってしまう。この頃から一郎の精神状態は、他人の目の及ばぬ所で破局にさしかかっていく。心配した二郎は、一郎の親友Hにたのんで兄を旅行につれだしてもらおう。そして旅先からよこした、一郎の様子を報告したHの手紙が最後の章「塵労」の後半を成しているのである。

さて、一郎お直夫婦の苦悩は世間によくある性格上の不和からくるものではないか、一郎のごとくしつこくさぐってみてもしょうがないのではないかと思われないこともない。しかし漱石の主題はそうした領域にとどまるものではない。一郎のお直に対する苦悩は、妻の本心をつかめぬ所に尽きるものではない。さらに「生そのもの」の実体を感じ得できぬということにまでつながっている。一郎は、自分のしていることが自分の目的になっていない、さらには方便にもなっていない、と不安と焦燥の日々をくりかえさねばならないのである。

「死ぬか、気が違うか、宗教に入るか」と苦しむ一郎の精神は、常人の目にはおかしくなっていくようにみえる。彼は絶対者(神)にあこがれ、自己を絶対者にしようと試みるのである。彼の妻お直は一郎のあらゆる態度に対して無反応な女である。「おれは霊も魂

も所謂スピリットもつかまぬ女と結婚している事だけはたしかだ」と一郎はいうが、元来他者とはそういうものではないのか。これほど完璧な他者の象徴はない。すなわち「行人」は、このような他者の意識と自己の絶対化への欲求の複雑な交錯によって構成されているのである。そして「神は自己だ」と言う一郎が愛を求めずにはいられない人間であることから「行人」の悲劇がはじまるのである。

絶対者であっては、人を愛することも人に愛されることもできない。愛が問題になるとき、必然的にあらわれるのは他者の意識である。しかし絶対者は、他者を超越していなければならない。絶対者になろうとし同時に愛を誰よりも必要とする一郎は、彼の妻を愛そうとした妻から愛されようとして失敗をつづける一郎は、永久に解決されない矛盾の中に自らを投じているといえるだろう。

いかに生きるべきかというのは倫理の問題である。倫理の問題は、根本的な形に還元すれば、他人をどうするかということに尽きる。人間の日常生活というのは、他人に対していかに行動し考えるかといってもよいのであって、そして倫理とはもっとも人間的な行為

なのである。倫理的な悟達という矛盾した行為を可能にするのは神のみである。ここで矛盾した行為といったのは、悟達というときに期待されるのは超絶的な世界の中への問題解消であるのであって、もはやこれは倫理的ではあり得ないからなのだ。倫理の問題を超倫理の世界に解消することはできようが、解決することはできないのである。漱石の精神の悲劇は、倫理の問題に、超倫理の要素をもちこんだところにあるといってもよいだろう。漱石はこの小説のかぎりでは一郎をして「死ぬか、気が違うか、宗教に入るか」のいずれをも選ばしめていないが、これは実に漱石の姿でもあった。神の悟達にたよるのは矛盾していると知りながら、死ぬわけにもいかない一郎は自己の絶対化をこころみるが、常人の目には気が違ったとしかうつらないのである。漱石の暗い晩年をおもうとき、一郎は実に漱石の姿とかさなってみえてくる。そして人生は何ぞという問題におわれることなく、せいぜい人生とはこんなものであろうといった一種のあきらめをもったぼくたちの日々は、中途半端な押れ合いでしかないのではないかと考えてしまうのである。

昭和49～51年度（3ケ年）学生利用状況

NDC分類	利用冊数			%			
	年度	49	50	51	49	50	51
000 総記		241	212	589	2.0	1.6	5.2
100 哲学		1,381	1,048	844	11.7	7.9	7.5
200 歴史・地理		351	260	165	3.0	2.0	1.5
300 社会科学		220	235	226	1.9	1.8	2.0
400 自然科学		3,247	2,902	2,808	27.6	21.9	24.9
500 工学・技術		4,823	6,707	5,399	41.0	50.6	47.8
600 産業		13	5	22	0.1	0.0	0.2
700 芸術・体育		147	160	118	1.2	1.2	1.0
800 語学		326	540	205	2.8	4.1	1.8
900 文学		1,026	1,186	924	8.7	8.9	8.1
合計		11,775	13,255	11,300	100	100	100

昭和51年度利用人員（科・学年別）

科	学年	利用人員					計	%
		1	2	3	4	5		
機械工学科		138	44	525	1,132	1,052	2,891	28.93
電気工学科		124	256	899	1,340	792	3,411	34.13
工業化学科		462	380	656	549	442	2,489	24.90
土木工学科		123	85	243	424	329	1,204	12.04
計		847	765	2,323	3,445	2,615	9,995	100
%		8.48	7.65	23.24	34.47	26.16	100	

昭和52年度 図書委員（教官及び学生）

倫哲・独語	※ 芋川平一	M1	三坂富士夫	C1	内田修司
電気工学科	松崎三重良	2	雅楽川伸	2	馬上功之
国語	池田豊	3	鈴木賢二	3	阿部隆之夫
機械工学科	中山淳一	4	鈴木栄一	4	佐藤康夫
電気工学科	佐藤寿雄	5	遠藤富隆	5	斉藤多美子
工業化学科	引地宏	E1	鈴木博之	土1	柏原隆
土木工学科	橋本孝一	2	藤社敬二	2	追分孝志
事務部長	西田安雄	3	渡辺富長	3	草野真一
庶務課長	日下俊一	4	長谷川広樹	4	佐藤保彦
図書係長	加藤勇	5	渡辺誠	5	半谷一成

※印は主任

# 新着図書目録

※印は図書館他各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

## 総記

河北年鑑 昭和52年版	河北新報社
朝日新聞縮刷版 51年11~12	朝日新聞社
52年 1~3	朝日新聞社
福島民報縮刷版 51年11~12	福島民報社
52年 1~3	福島民報社
現代用語の基礎知識 1977特装版	自由国民社
伊勢林前遺跡 B地区、弥生時代土坑の調査	いわき市教育委員会
朝日年鑑1977 新資料百科	朝日新聞社
三枝博音著作集 12	中央公論社
漢文庫 第13冊 ち〜と	名著普及会
第14冊 と〜に	同
第15冊 に〜は	同
第16冊 は〜ひ	同
第17冊 ひ〜ほ	同
第18冊 ほ〜む	同
第19冊 む〜よ	同
第20冊 よ〜を	同
中国古典新書 45	
人天宝鑑	明德出版
神吟語	同
吉田松陰全集 1.2.5.6.8.10	大和書房
日本図書館学講座 1 図書館概論	雄山閣
東洋文庫 298 モンゴル帝国史 5	平凡社
299 ハーフズ群集	同
300 みかぐらうた・おふてさき	同
301 中国の医学と技術	同
302 女大学集	同
303 江戸参府旅行記	同
304 金光大神覚	同
305 歴代名画記	同
306 甲子夜話	同
307 夷寇紀聞	同
名著普及会編 名著普及会と広文庫詳書索引	名著普及会
齊藤伊知郎 近代いわき経済史考	いわき短大
日本写真年鑑 77 昭和52年版	日本写真新聞社
漢文大系 20 蓬雨子 孔子家語	富山房
初等情報処理講座 3 情報検索入門	森北出版
松下幸之助 私の夢 日本の夢 21世紀の日本	PHP研究所

## 哲 学

今中寛司編 辰生祖孫全集 5	河出書房新社
朱子学大系 12 朝鮮の朱子学 日本の朱子学、上	明德出版社
NHKブックス 273 日本史にみる地獄と極楽	日本放送出版協会
278 イエスと現代	同
近代日本思想大系 18 河上肇集	筑摩書房
29 小林秀雄集	同
34 大正思想集 Ⅱ	同
日本思想史講座 1 古代の思想	雄山閣
3 近代の思想	同
日本思想大系 3 徳令	岩波書店
C.G. ユング 心理学と錬金術 Ⅱ	人文書院
鈴木秀夫 超越者と風土	大明堂
トフルキ 哲学講義 1~2 認識 1~Ⅱ	筑摩書房
3 行動 1	同
高木きよ子 ウィリアム・ジェイムズの宗教思想	大明堂
スピンス 人間心理と宗教	同
戸田義雄 宗教の世界	同
宗教と言語	同
根本英夫 宗教学	同
世界の宗教	同
諸橋徹次 中国古典名著 1~6	講談社
水島憲一編 人間科学入門	有斐閣
桑本勝 倫理学初歩	東京創元社
岩崎武雄 倫理学	有斐閣
小原信 状況倫理の可能性	中央公論社
ウィトゲンシュタイン全集 5	大修館書店
カント全集 17 書簡集 1	理想社

## 歴 史

朝日新聞に見る日本の歩み 昭和36年~41年	朝日新聞社
孫岡謙二郎編 地図にみる世界の百万都市	朝倉書店
水津一朗 ヨーロッパ村落研究	地人書房
大島襄二 文化地理学序説	理想社
アーミンヘルマン ハイゼンベルクの思想と生涯	講談社
日本図誌大系 四国	朝倉書店

中国 中部 1~2	朝倉書店
九州 1~2	同
論集日本の歴史 12 大正デモクラシー	有精堂出版
桑原公徳 地籍学	学生社
NHKブックス 276 ある明治の福社像	日本放送出版協会
277 西郷大宰府	同
281 千利休	同
284 行政 天保の文人	同
日本地誌 16 鳥取県 島根県 中国四国地方総論	二宮書店
ルネッサンス研究所編 ユートピア(ルネッサンス双書 4) 荒竹出版	
体系日本史叢書 23 思想史 Ⅱ	山川出版
平林猛得 良源(人物叢書 173)	吉川弘文館
藤本利治 近世都市の地域構造	今古書院
ピーター ハゲット 立地分析 下	大明堂
日本国勢地図帳	日本地図センター
コンサイス世界年表 二宮尊徳と現代 1~2	三省堂
理想社	
日本都市生活史料集成 7 津町篇 Ⅱ	学習研究社
8 宿場町篇	同
9 内前町篇	同
10 在郷町篇	同
吉川幸次郎編 東洋学の創始者たち	講談社
山中襄大 人名地名の語源	大修館書房
木内信蔵 自然との語り	古今書院
牧口常三郎 復刻 人生地理学 解題	第三文明社
藤岡謙二郎編 歴史の空間構造	大明堂
佐藤甚次郎 生活文化と土地柄	同
石水照雄 計量地理学概説	古今書院
矢守一彦編 空からみた歴史景観	大明堂
厚田典良編 空からみた産業景観	同
野間三郎訳編 空間の理論	古今書院
山田安彦 古代東北のフロンティア	同
図説日本の歴史 18 戦後日本の再出発	集英社
日本の山河 1 沖繩 天と地の脈	図書刊行会
2 鹿児島 同	同
3 宮崎 同	同
4 大分 同	同
5 熊本 同	同
7 佐賀 同	同
8 福岡 同	同
図説中国の歴史 1 よみがえる古代	講談社
1 よみがえる古代	同

2 華漢帝国の威容  
岩波講座日本歴史

13 近世 5  
17 近代 4  
21 近代 8  
22 現代 1  
24 別巻 1

日本生活文化史  
10 軍国から民主化へ  
江戸時代図誌

6 江戸三  
8 同  
12 北陸道一  
15 東海道二  
15 同  
17 畿内一  
23 西海道二  
24 南島  
24 同

講座比較文化  
4 日本人の生活  
8 比較文化への展望

守田志郎  
二宮尊徳(朝日評伝選2) 朝日新聞社

## 社会科学

教育年鑑刊行委員会編  
教育年鑑 昭和52年版 きょうせい社

田村正夫  
商業地域の形成 博文社

本間長世編  
新しい女性像を求めて(世界の女性史10)  
評論社

立原一男編  
王朝の世と女性の役割(同18) 同

藤島宇内編  
今日の朝鮮 三省堂

産業能率短期大学システムデザイン研究会編  
電子計算機導入ガイドブック 改訂版  
日刊工業

初等情報処理講座  
4 予測の知識 森北出版

NHKブックス  
275 両鳥歌謡 日本放送出版協会  
280 世間体の構造 同  
セマウル 大韓民国 1974~1975 大韓民国

今日の韓国 1975  
アジアPRセンター  
図詳ガクケンエリア教科事典16 英語 学習研究社

六法全書 昭和52年版 有斐閣  
日本会社史総覧 経済往来社  
国勢調査報告 昭和50年  
いわき市企画開発部  
英語教育年鑑 1978年度版 興拓社  
地域開発と住民運動 フジテクノシステム

吉田和吉編  
社会人類学 有斐閣

西尾出他編  
EDPアプリケーションハンドブック  
日刊工業新聞社

吉田賢治編  
EDPシステム 評価と開発 同

真鍋博他  
道徳教育 この人と語る 明治図書

村上敏治  
道徳教育の構造 同  
講座道徳教育の本質と展開  
1 道徳教育の道徳 西井書店  
2 道徳指導計画の改善 同  
3 道徳授業の改善 同

稲根怡 ルソー エミール入門 明治図書  
辰尾十二二  
ベストロッチ ゲルトルト入門 同

荻野雅子  
フレーベル 人間教育入門 同  
正木正 道徳教育の研究 金子書房  
他田進他  
道徳教育の探究 福村出版

江藤恭二他  
道徳教育の理論と実践 同  
矢島幸吉他  
増補 道徳教育の研究 同

田浦武雄編  
道徳と教育 同  
丸山真男  
戦中と戦後の間 みすず書房

西岡久雄  
経済地理分析 大明堂  
菊地利夫  
高校地理教育の原理と方法 古今書院

加藤秀俊  
空間の社会学 中央公論  
合田栄作  
通橋園 大明堂

松尾陽一  
クラブ活動と校内スポーツ 泰流社

上田薫編  
人間像と教育 その実践 明治図書  
講座国民性の教育  
1 国民性とは何か 同  
2 国民性教育とは何か 同  
3 日本人とは何か 同

総理府青少年対策本部編  
青少年白書 昭和51年版 大蔵省印刷局

中内敏夫他  
現代教育学の基礎知識 1.2 有斐閣

佐藤隆博  
CMIシステム 教育におけるコンピューター利用 電子通信学会

W.H. Holtzman  
CAIシステム 共立出版  
日立労働運動史 日立製作所日立工場労働組合

世界教育史大系  
1 日本教育史 I 講談社  
2 同 II 同  
3 同 III 同  
4 中国教育史 同  
5 朝鮮教育史 同  
6 東南アジア教育史 同  
10 フランス教育史 I 同  
11 ドイツ教育史 I 同  
12 同 II 同  
13 イタリア スイス教育史 同  
14 北欧教育史 同  
15 ロシア ソビエト教育史 I 同  
18 アメリカ教育史 II 同  
19 ラテン アメリカ教育史 I 同  
20 同 II 同  
24 幼児教育史 I 同

24 中等教育史 I 同  
25 同 II 同  
28 義務教育史 同  
29 教育財政史 同  
30 教員史 同  
31 体育史 同  
35 農民教育史 同  
37 社会教育史 同  
38 道徳教育史 同

菊田正男編  
文化人類学 有斐閣  
Harold B. Allen  
Teaching English as a Second Language McGraw-Hill

## 自然科学

石黒浩三他編  
K B G K物理基礎編 朝倉書店  
電子通信学会  
学術論文の書き方 発表の仕方 電子通信学会

秦忠夫他  
アミノ酸 タンパク質の分解 講談社  
波多野博行他  
液体クロマトグラフィーとその応用 同  
新しい液体クロマトグラフィー 化学の領域 増刊88号 雨江堂  
R.N. シバード  
多次元尺度構成法 共立出版

松岡愛巳  
電子計算尺とその応用 同

村田和美  
ホログラフィー入門 朝倉書店  
ケレン ミクロの世界と超宇宙 東京図書  
広瀬秀雄  
超遠鏡 中央公論社  
藤井旭 ふじの旭の新産産絵図 誠文堂新光社  
和田秀三他  
統計学大要 養賢堂

新しい応用の数学  
12 漸近展開 教育出版  
13 分散分析 同  
14 中心極限定理 同  
15 微分方程式と解法 同

P.G. ホーエル  
改訂版 初等統計学 培風館  
東京天文台編  
理科年表 昭和52年 丸善  
物理学実験  
3 半導体技術 下 東京大学出版会  
4 真空技術 同  
5 薄層の基本技術 同

東京大学応用物理学教室編  
応用物理学実験 同

田嶋太郎編  
コンピュータ図学 コロナ社

守田栄他  
騒音用語事典 オーム社  
芝祐順 因子分析法 東京大学出版会  
ストラットン  
電磁理論 生産技術センター

菊地俊夫  
人間の生物学 理工学社  
日本物理学会編



計算機による物理実験データ処理  
サイエンス社

村山定男他  
新版 天文学への招待 河出書房新社  
同 星座への招待 同 巻

竹林保次  
化学精義 1~2 培風館

微生物生態研究会編  
微生物の生態 1~4 東京大学出版会

藤山忠夫  
基礎から応用へ 習熟化学 1 三省堂

江藤千秋  
化学 I 秘伝のオープン 進学研究社

塩見賢吾  
精講 化学 学生社

渡辺慶一他  
化学 1~2 根底 500 題 聖文社  
同 新課程 解明化学 1~2 同 巻

若山芳三郎他  
だれにでもわかる数値計算の基礎とプログラミング 啓学出版

渡辺啓他  
よくわかる化学 1 旺文社

野村祐次郎編  
チャート式シリーズ新化学 1~2 数研出版

白井道雄他  
研究化学 1~2 旺文社

東久保勝彦編  
理解しやすい化学 1~2 文英堂

田村新一  
難問題の系統とその解き方 化学 1.2.5 教育社

長島弘三  
化学 1~2 学習研究社

石橋弘毅  
溶剤便覧 棋書店

坂本光雄  
Chemical Abstracts の使い方 地人書院

寺澤寛一  
自然科学者のための数学概論 増訂版 岩波書店

東大数学教室セミナーノート  
8 連続層と多変数解析関数論への応用 東大数学教室

12 Lie 理論と Chevalley 群 上 同  
13 同 下 同

14 G-Structures and Pseudo-groups 同

17 同次線型偏微分方程式系の解の層の分解について 同

19 複素多様体と複素構造の実形 I 同  
20 代曲面論 同  
22 位相の超函数と定数係数線形偏微分方程式 同  
23 対称領域の正則うめ込みについて 同

26 The Structure of dynamical Systems 同  
27 楕円型微分作用素のスペクトル 同  
28 外微分形式系の理論 同  
29 最近の多様体論の発展 同  
31 複素多様体と複素構造の実形 II 同  
32 複素解析曲面論 同

実験物理学講座  
16 電気物性 共立出版

T. ページ他  
スカイ & テレスコープ天文選集 7 白鷺社

理工系 例題解法  
9 統計 共立出版  
海洋学講座  
9 海洋生物学 東京大学出版会  
14 海洋測定法 同  
海外研究開発レポート  
半導体表面の研究 J. T. R. A  
福島地方気象台編  
福島県の気候 日本気象協会福島支部  
上尾庄次郎  
有機合成反応 上 廣川書店  
物理学実験  
3 半導体技術 上 東京大学出版会  
ブルーバック  
B-262 十番目の惑星 講談社  
日本道路協会編  
単位 記号 パワー社  
井口朝弘  
多変数解析とコンピュータプログラム 日利工業  
われらの地球 人工衛星写真 朝倉書店  
火星 探査衛星写真 同 巻  
江藤千秋  
秘伝のオープン河合塾 化学 II 進学研究社  
鈴木義一郎  
例題統計入門 実務出版  
原 恵 星座の神話 恒星社  
酒井高男  
おもちゃの科学 講談社  
Henry H. Bauer  
電極反応 東京化学同人  
S. T. コーワン  
微生物分類用語事典 東京大学出版会  
石田望 基礎課程 確率と統計 実教出版  
飛田武幸他  
ガウス過程 (紀伊國屋数学叢書 9) 紀伊國屋書店

建設省河川局編  
雨量年表 昭和 49 年 日本河川協会  
NHK ブックス  
272 カタストロフィーの話  
285 人間と自然について 日本放送出版協会

中村誠太郎編  
物理学の世界 (NHK市民大学叢書 38) 同

E. アムール  
匂い その分子構造 恒星社厚生閣  
山崎弘郎  
電子回路技術 東京大学出版会  
脇本和昌  
乱数の知識 (初等初級理講座 5) 森北出版  
今村勲 確率場の数学 応用数学叢書 岩波書店  
薄塚の絶縁破壊 (海外研究開発レポート) J. T. R. A  
小野寺力男  
グラフ理論の展開と応用 (数学ライブラリ 30) 森北出版  
M. Atiyah 他  
Notes on the Lefschetz Fixed Point Theorem for Elliptic Complexes 東大数学教室  
Jacques Dixmier  
Algebres Enveloppantes Editeur: Gauthier-Villars  
Topologie Differentielle 同  
河田敬義

Seminar on Topology 同  
Seminaire Henri Cartan  
Theoreme D Atiyah-Singer 1~2 同  
Dunford  
Linear Operators Part 1~3 Wiley  
AEMaxwell  
Multivariate Analysis in Behavioural Research Chapman and Hall  
Hans Sagan  
Advanced Calculus Compang Houghton Mifflin  
R. E. A. C Paley  
Fourier Transforms in the Complex Domain A. M. S  
D. V. Widder  
The Heat Equation Academic Press  
H. R. Schwarz 他  
Numerical Analysis of Symmetric Matrices Prentice-Hall  
Beranek  
Noise and Vibration Control Mc Graw-Hill  
Leonard Meirouitch  
Elements of Vibration Analysis 同  
Robert C. Gunning  
Riemann Surfaces and Generalized Theta Functions Springer-Verlag  
David Mumford  
Algebraic Geometry I  
Complex Projective Varieties 同

## 工学・技術

J. E. スミス  
トレーキ・ニオン号汚染による海洋汚染と生物環境 日高海洋科学振興財団  
浅沼強編  
流れの可視化ハンドブック 朝倉書店  
小西一郎編  
機構 設計篇 1~II 丸善  
平井敦他  
機構 3 技報堂  
椎目博美  
土木解析学 現代土木工学 2 丸善  
新風 耐震構造専門部会 第 8 回合同部会  
講演 天然資源の開発利用に関する日米会議 建設省土木研究所  
W. ステグナー  
大発見 講談社  
パシフィック コンサルタンツ 25 年史  
パシフィック コンサルタンツ  
東芝百年史 東京芝浦電気株式会社  
板垣一郎  
電子管工学 (森北電気工学シリーズ 1) 森北出版  
大島康次郎  
サーボ機構 (自動制御基礎講座) オーム社  
道路橋耐震設計指針 同解説 日本道路協会

創業 100 年史	品川白輝 KK	John Markus 編	電子回路大事典	誠光堂新光社	福水平編	太陽熱発電技術読本	同
第28回建設省技術研究会報告 昭和49年度	建設省	めつき技術便覧編集委員会	めつき技術便覧	日刊工業新聞社	武居文雄他編	解説シーケンスコントローラ	同
新版 公害防止の技術と法規	公害防止協会	北山直方	図解 熱力学の字ひ方	オーム社	日本ユニパック総合研究所編	共立総合コンピュータ辞典	共立出版
トランジスタ技術 別冊 インターフェース	マイクログロブのすべて 第1巻~第2巻	堀川健二	油圧技術入門 油圧シリーズ1	成山堂	海外研究開発レポート	自動車設計における数学的解析	J T R A
トランジスタ技術 14巻2号	特集 第2世代のOPアンプ	関谷礼他	工業技術者のための応用数学概要	いずみ書房	自動車設計における応力解析	同	同
第4回環境問題シンポジウム講演集	土木学会	山根武彦	電子回路の入門 上 下	東京電機大学出版局	自動車設計における応力解析	同	同
第72回講演会 日本機械学会関西支部 教材	ヒートパイプの原理から応用まで	東京電機大学編	同期機	同	柳井久義編	異種回路工学 電気 電子 工学大系 14	コロナ社
深奥に挑む 多摩川決壊と水防活動記録	東京法令出版	最新 電気材料	最新 直流機	同	古濱任一	内務機関工学	産業図書
日本機械学会講演論文集	№ 770-1	最新 変圧器	最新 誘導電動機	同	ジュームズR スレイグル	人工知能	同
№ 770-2	同	最新 誘導電動機	電子回路のCAD	同	泉弘志	エレクトロニクス術語解説	誠光堂新光社
№ 770-3	同	本田保士	気体放電現象	同	吉村元男	空間の生態学	小学館
№ 770-4	同	関口祐弘	資料録音 振動防止	山海堂	化学工学協会編	化学工学便覧 改訂3版	丸善
№ 770-5	同	山下博典	資料録音 振動防止	山海堂	情報処理入門講座	2 フォートラン	コロナ社
№ 770-6	同	佐々木彬夫他	LSI入門	近代科学社	3 フォートラン演習	同	同
河川便覧 1976 昭和51年版 日本河川協会	集積回路の解析と設計	増岡康治	水問題を考える	日本能率協会	岡村史良他	電子機器学	内田老鶴堂新社
電子機器の組立技法	オーム社	西村起彦編	J I S 情報処理用語解説	共立出版	大岡崇	データレコーダとその応用	オーム社
松本博之	現場のNC入門	電機学会通信教育会	電力発生工学	電気学会	米田半導体電子工学教育委員会編	多段トランジスタ回路	産業図書
現場のNC入門	ジャパンマシニスト社	林武志	電機気体論	同	米山正進	パルスとデジタル回路	東海大学出版会
小林依	リレーの選び方 使い方	貞島正市他	保護継電器読本	オーム社	科学技術庁編	科学技術白書 昭和51年版 大蔵省印刷局	同
押田勇雄	太陽エネルギー	日本道路協会	計測法通論	東京大学出版会	志村正道	電子回路1 リニア編	昭晃堂
加藤健二	金属塑性加工学	土木学会編	日本の土木地理	森北出版	同	電子回路2 デジタル編	同
浜本達保	測定技術 技能と訓練	C. R. ワイリー	工業数学 上 下	ブレイン図書出版	日本電気情報処理教育部編	シミュレーション プログラミング入門	日本能率協会
岡野修一他	機械製図図例集	工業数学 上 下	工業数学 上 下	同	シミュレーション プログラミング入門	同	同
佐藤知雄編	鉄鋼の顕微鏡写真と解説 改訂増補版	剗沢勇	排水の物理化学的処理	産業用水調査会	日本電気情報処理教育部編	シミュレーション プログラミング入門	日本能率協会
鈴木春義	最新 溶接ハンドブック	合田健編	水質工学 応用編	丸善	志村正道	電子回路1 リニア編	昭晃堂
日本道路協会編	クロノイト ポケットブック 改訂版	激動の現代下水道刊行会編	激動の現代下水道史	激動の現代下水道刊行会	山田博	電子回路2 デジタル編	同
小野正	機械設計3 エンジンの設計製図	建設省都市局下水道部編	日本の下水道 昭和51年	日本下水道協会	山本格治	応用数学-理工系コース	昭晃堂
宮部英也編	基礎力学演習 工業熱力学	SCRハンドブック編集委員会編	SCRハンドブック	丸善	山田博	コンピューター アーキテクチャ	産業図書
骨材実用便覧編集委員会編	骨材実用便覧Ⅱ 製造と利用	サイリスタ エレクトロニクス	サイリスタ 1	同	工場統計表 大正9年~10年	エンジニアリング サイエンス講座	共立出版
同	同	サイリスタ 2	サイリスタ 2	同	1 工学と独創	同	同
同	同	サイリスタ 3	サイリスタ 3	同	10 工学力学	同	同
鈴木光彦	図説 電気計算機システム 改訂3版	サイリスタ 4	サイリスタ 4	同	23 フィードバックと制御	同	同
田島栄	新版 表面処理ハンドブック	サイリスタ 5	サイリスタ 5	同	25 情報工学通論	同	同
長部弘之	電気計算機用語辞典	電子通信学会編	学術論文の書き方 発表の仕方	電子通信学会	北村恒二	騒音と振動のシステム計測	コロナ社
ミ・チュル	半導体パルス回路	九十堂孝仁他	高圧電気工事受検ポケットブック	オーム社	中原啓一	情報検索	電子通信学会
黒田高一	電気通信工学例題演習	高圧電気工事受検ポケットブック	オーム社	同	設楽正雄	燃焼の理論と計算法	オーム社
					志村正道	電子回路II デジタル編	昭晃堂
					F. P. ポポフ	固体の力学入門2	培風館

電子科学シリーズ  
 43 ICによる測定器の製作 産報  
 50 定電圧ICとその使い方 同  
 54 マイクロプログラミングとその応用 同  
 67 マイクロコンピュータ機器の設計 同  
 IC活用事典 ラジオ技術全書 017  
 ラジオ技術社  
 電気電気学校教務部  
 電験第2種模範解答集 電気書院  
 情報技術シリーズ  
 1 プログラミング コロナ社  
 5 プログラム理論 同  
 6 フォートラン例題演習 同  
 理工学海外名著シリーズ  
 14 マトリクス機械振動解析入門  
 ブレイン図書出版  
 20 工学のための力学 同  
 土木施工法講座  
 9 河川構造物施工法 山海堂  
 14 下水道施工法 同  
 石川二郎  
 改訂 機械要素2 コロナ社  
 東松孝臣  
 配電系統 最新高級電験講座15 電気書院  
 堂野誠一  
 改訂版 内燃機関工学 山海堂  
 北川英夫他  
 フラクトグラフィ(破壊力学と材料強度講座)  
 培風館  
 芦田和男編  
 改訂版 ダム堆砂文獻資料集 河崎書店  
 建設省河川局編  
 流量年表 第27回 昭和49年  
 日本河川協会  
 第2~12回水質汚濁研究に関するシンポジウム講演集 日本水質汚濁研究会  
 電子通信学会創立六十周年記念 総合全国大会 昭和52年度 講演論文集  
 電子通信学会  
 木村俊見  
 貯留開閉法 水文研究資料 河崎書店  
 大熊由紀子  
 核燃料 朝日新聞社  
 久下隆編  
 旋盤作業の要領(機械技術要領シリーズ5~7) 工業会企画出版室  
 同 手仕上げ作業の要領(同8) 同  
 古谷風 合金メッキ 金属表面工業全書6 朝倉書店  
 日本電子顕微鏡学会関東支部編  
 走査電子顕微鏡 基礎と応用 共立出版  
 Brian WKernighan  
 プログラム書法 同  
 第4回環境問題シンポジウム講演集 土木学会  
 第1回下水道技術精定試験問題集 日本下水道協会  
 公害白書 昭和51年版  
 福祉厚生環境衛生公署規制課  
 旭硝子工業技術奨励会研究報告 1978  
 Vol.28 旭硝子工業技術奨励会  
 NHKブックス  
 279 システム工学とは何か 日本放送出版協会  
 282 電気の歴史 同 全  
 土木施工法講座  
 21 宅地造成施工法 山海堂

数値制御のプログラミング(機械工学全書1100) 大河出版  
 三戸左内他  
 LSI大規模集積回路(工業ライブラリー27) 日刊工業  
 読本育三編  
 材料力学通論(東京大学基礎工学8) 東京大学出版会  
 吉川和広  
 最新土木計画学(最新土木工学シリーズ14) 森北出版  
 佐野亦男  
 道具の再発見(ブルーボックス B-309) 講談社  
 最新計測回路設計集(エレクトロニクス設計資料 No.5) エレクトロニクス設計資料編集委員会  
 山村和也他  
 土と水の諸問題(現場監督者のための土木施工5) 鹿島出版会  
 菅野貞他  
 改訂 電気製図(新編電気工学講座23) コロナ社  
 Joseph A Kics  
 Cracks and Fracture ASTM  
 WM Keys  
 Convective Heat and Mass Transfer MCGraw-Hill  
 海外研究開発レポート  
 Analysis Modelig and Forecasting Systems (Vol.1~2, Band1~2) NTIS  
 Development of Thermistor Materials and Devices Technical Press  
 George P. Sutton  
 Rocket Propulsion Elements Wiley Interscience  
 Annual Book of ASTM Standards A.S.T.M  
 C.D. Beachem  
 Fractography—Microscopic Cracking Processes 同

## 産 業

昭和産業史1~3 東洋経済新聞社  
 玉城哲 風土の経済学 新評論  
 NHKブックス  
 271 近世農書に学ぶ 日本放送出版協会  
 274 土の科学 同 全  
 産業資源77 財団法人科学技術広報  
 国際電信電話年報 昭和50年度 国際電信電話株式会社  
 並河萬里。

## 芸 術

藝妓寺次郎編  
 美の美百選 日本経済新聞社  
 入江泰吉  
 萬葉大和路 別刷観賞用 保育社  
 日本スキー教室 スキージャーナル

シムクロード 新潮社  
 伏見伸敬編  
 角川書店  
 レクリエーション事典  
 1 レクリエーションと現代 不味堂出版  
 2 レクリエーションの科学 同  
 3 レクリエーションの展開 同  
 小寺進礼京都  
 3 醍醐寺 淡交社  
 4 天龍寺 同  
 5 神護寺 同  
 6 建仁寺 同  
 7 淨瑠璃寺 同  
 8 平等院 同  
 9 萬福寺 同  
 10 妙心寺 同  
 11 仁和寺 同  
 12 高野寺 同  
 日本松松大蔵  
 2 伴大納言絵詞 中央公論社  
 4 信貴山縁起 同  
 7 熊鬼草紙 地獄草紙 南草紙 九相評 絵巻 同  
 大和古寺大観  
 4 新薬師寺 白鶴寺 円成寺 岩波書店  
 日本の仏教第一期  
 9 国宝 醍醐天徳 醍醐寺 学習研究社  
 10 国宝 十二天像 同  
 新修日本絵巻物全集  
 1 絵因果経 角川書店  
 9 北野天神縁起 同 全

## 語 学

学生社編  
 英語長文読解大意把握問案 学生社  
 梶木隆一  
 英語総合問題セミナー(問題研究) 同 全  
 大塚高信編  
 新クラウン英語熟語辞典 三省堂  
 コンサイス外来語辞典 同  
 日米国語辞典 同  
 小西友七  
 英語前置詞活用辞典 大修館書店  
 Arnola Leonhardi  
 例解英語用法辞典 主婦の友社  
 武田勝彦  
 基礎からわかる英作文 日栄社  
 英文法の活用 あすろ出版  
 英語語法大事典 大修館  
 研究社新英和大辞典 研究社  
 同 同  
 堀内克徳編  
 ベンパル事典 ジャパンタイムズ  
 実践英文法シリーズ  
 1 冠詞 名詞 代名詞 泰文堂  
 2 形容詞 副詞 同 全  
 3 動詞 上 同 全  
 4 同 下 同 全  
 5 接続詞 間投詞 同 全  
 6 前置詞 同 全  
 7 文法 上 同 全  
 8 文法 下 同 全  
 小学館ランダムハウス英和大辞典

上 A-L 下 M-Z 小学館  
 エドワードGサイデンステッカー 朝日出版社  
 日米国語辞典 WMリヴアース  
 外国語習得のスキルその教え方 研究社  
 小西友七 英語シノニムの語法 同  
 武部良明 漢字の用法 角川書店  
 伊吹一 暮らしの中の敬語 笠間書院  
 文化庁編 敬語(ことばシリーズ1) 大蔵印刷局  
 言葉のしつけ(2) 同  
 言葉に関する問答集(3,5) 同  
 外来語(4~5) 同  
 星新飯 あまみやすい英語表現 研究社  
 山中健夫 語源十二支物語 大修館書店  
 秋山登志之 英米会話 パンチライン 泰文堂  
 柴田武編 ことばの意味(平凡社選書47) 平凡社  
 あらかわむべえ 外来語辞典(角川第二版) 角川書店  
 長谷川徹 日本語からみた英語 サイマル出版会  
 日本語と英語 同  
 大石初太郎 敬語 筑摩書房  
 国弘正雄 英語の話しかた サイマル出版会  
 現代アメリカ英語1~2 同  
 大石初太郎 敬語の使い方 明治書院  
 渡辺登士他 英 英語語法大事典 大修館  
 日本通訳協会編 通訳教本 英語通訳への道 大修館書店  
 新訳漢文大系 58 続 文章軌範 上 明治書院  
 57 同 下 同  
 71 摩訶八大家文選本二 同  
 79 文選 賦風 上 同  
 小川芳男 よくわかる英作文 旺文社  
 よくわかる英文法 同  
 よくわかる英文解釈 同  
 長谷川徹 研究英作文 同  
 梶本隆一 英語の基礎 同  
 堀内克明 英文解釈1~3年 学習研究社  
 英作文1~2年 同  
 芳賀隆編 社会の中の日本語 大修館書店  
 鈴木才夫編 日本語の語彙と表現 同  
 川本茂雄編 座談会 ことば 同  
 松本安弘他 あなたの英語辞断辞書 北が家書店  
 堀内克明 高校英語の基礎 学習研究社  
 片武栄 基礎力・英語 同  
 吉田正俊 理解しやすい英文法 文英堂  
 同 英文解釈 同

文英堂編集部 ユニコンノート英文法1~3年 同  
 鈴木進 チート式シリーズ英作文 数研出版  
 一丸秀夫 1年からの英語(新教科書マスター) 研数書院  
 片山忠雄 基本高校英語解説 文研出版  
 中西信太郎 英文解釈の基礎 改訂 中央図書  
 青木常雄 英作文の基礎訓練 金子書房  
 池水勝雄 詳解高校基本英語 昇龍堂出版  
 松村幹男 新総合英語解説 文化評論出版  
 A.W.Medley 総合英語の新研究 泰文堂  
 龍口直太郎 ニューテンプル 英語便覧 評論社  
 斎藤誠哉 やさしい英文法 研究社  
 島田昇平 高校基礎の英語 美誠堂  
 吉田正俊 新課程 解明英文法 文英堂  
 日本語講座 1 日本語の姿 大修館書店  
 2 ことばの遊びと芸術 同  
 現代作文講座 2 作文の基礎 明治書院  
 3 作文の条件 同  
 4 作文の過程 同  
 7 作文教育の方法 同  
 駒田信二他 中国の故事と名書500選 上 あへそ 平凡社  
 同 下 たへわ 同  
 安井徳他 形容詞(現代の英文法7) 研究社  
 松山正男他 整理と解法 英文解釈 旺文社  
 新修体育大辞典 不味堂出版  
 神山正治 英語長文読解問題集 学習研究社  
 池田重三他 高校A級英語長文問題集 昇龍堂  
 大塚高信 上級総合英語問題集 長崎書林  
 C.A.Meyer The Two-Word Verb A Dictionary of the Verb-Preposition Phrases in American English Mouton  
 John Bartlett Familiar Quotations Macmillan  
 Grant Taylor American English Reader MCGraw-Hill  
 Hayden他 Mastering American English Tuttle Prentice-Hall  
 Theodore M.Bernstein Bernsteins Reverse Dictionary R K P  
 M.A.K.Halliday Explorations in The Functions of Language Arnold  
 Geoffrey N.Leech

A Linguistic Guide to English Poetry Longman  
 David Crystal Investigating English Style 同  
 I an A.Gordon The Movement of English Prose 同  
 David P.Harris Testing English and Second Language MCGraw-Hill  
 Modern English Essays 同  
 E.Frank Candlin New Present Day English 1-3 Candlin  
 Robert Lado English Series Book 3 Simon and Schuster  
 J.O.A.Herrington English Patterns and Structure H.E.B  
 David Hicks Foundations of English Student Book 2 Longmans  
 John Millington Ward New Intermediate English Grammar 同

**文 学**

世界の文学  
 4 サミヤーチン ブルガーコフ 集英社  
 8 ナボコフ 同  
 17 ゴールディング 同  
 20 ノック 同  
 22 ヨーンソン 同  
 M.H.エイブラムズ 鏡とランプ ロマン主義理論と批評の伝統 研究社  
 十七世紀英文学研究会編 形而上詩研究 金尾堂  
 石井正之助 英語の世界 大修館書店  
 生地竹郎 蕪蕪と十字架 集英書林  
 大塚高信 シェイクスピアの文法 研究社  
 内田道夫 中国小説研究 評論社  
 青木一男 たけくらべ研究 教育出版センター  
 土とふるさとの文学全集 家の光協会  
 8 田野落日 同  
 11 荒野に挑む 同  
 12 舞台の上で 同  
 14 大地にうたう 同  
 山岡荘八 燃える軌道 1 戦雲の巻 学習研究社  
 同 2 飛竜の巻 同  
 同 3 人間軌道の巻 同  
 同 4 天声の巻 同  
 藤原日本古典文学 2 日本書紀 風土記 角川書店  
 12 境中納言物語 とりかへばや物語 同

15 歌謡Ⅱ	同	18 19世紀英米文学ハンドブック作家作品	Ronald P. Draper	
17 新古今和歌集 山家集 全徳和歌集	同	資料事典 南雲堂	D.H. Lawrence	同
	同	教育出版センター編集部編	L.A. Richards	
35 秋成 馬琴	同	国文学者名簿総覧 昭和52年版	Principles of Literary Criticism	P. K. P
村松剛 死の日本文学史	新潮社	教育出版センター	Adriam Poole	
J. M. マリー		ゴッゴリ全集2	Gissing in Context	Macmillan
文体の問題点	八潮出版社	ミールゴロド	Peter Earle	
村岡勇編		内田泉之助	The World of Defoe	Weidenfeld & Nicolson
摩石資料 文学論ノート	岩波書店	古詩券 上(夏詩大系4)	Joseph N. Riddel	
中島誠雄		ルネッサンス双書	Cecil Day Lewis	Twayne
現代俳句全撰	学燈社	3 形而上詩と願想詩	Thomas Traherne	
森野繁夫		NHKブックス	The Temple of Eternity	Kennikat
六朝詩の研究	第一学習社	267 唐詩 その伝達の場	Milward	
富安風生		白川静 中国の三代文学2	D. Ausonzo	
老の春 1 随筆	求龍堂	筑摩世界文学大系	LandscapE and InscapE	Elek
閑 2 消息	同	23 サド・レチフ	Keats's Metaphors for the Poetic Imagination	Duke
山上次郎		中国の名詩鑑賞	Jeffrey Meyers	
斎藤茂吉の生涯	文芸春秋	6 中唐	George Orwell	R. K. P
野口武彦		小堀桂一郎		
江戸文学の詩と実実	中央公論社	西学東漸の門(森鷗外研究)		
吉田精一他編		吉川幸次郎全集24		
近代詩鑑賞辞典	東京堂出版社	Trollope		
窪田章一他編		The Way We Live Now		
和歌鑑賞辞典	同	Richard Carpenter		
ダンテ. 神曲		Thomas Hardy		
3 天国篇	集英社			